

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 23 日 (木) 午後 7 時 30 分～午後 9 時
- 2 開催場所 京丹後市立網野南小学校ランチルーム
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、米田教育長、藤原財務部長、渡部企画総務部長、和田市民部長、水野教育次長、高橋教育理事、藤村企画政策課長、石嶋市民協働課長、岸本網野市民局長、谷口網野市民局長補佐、増田学校教育課長、安達社会教育課長、数多教育総務課長補佐、小西指導主事、土出社会教育課長補佐 計 17 名
地元出席者 24 名

報道 毎日新聞

4 内容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
- (3) 質疑応答

5 要旨

- (1) 開会あいさつ及び経過説明 (中山市長)
- (2) 資料説明
①京丹後市学校再配置基本計画 (素案) について (米田教育長)
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) について (水野教育次長)
- (3) 質疑応答

【出席者】

少子化はわかるのですが、統合して家から学校までが遠くなると親が大変ではないのか？この不景気の中、仕事で遠くまで行かなければならなかったりすると大変ではないのか。その辺も少子化対策と一緒に考えていってほしい。

【教育長】

今、言われたことはそのとおりだと思います。学校が遠くなると、登校時間は早くなり、お勤めの方などいろんな家庭の事情もあるということでもあります。また、他の会場では、登下校の体制をどのようにとるか、バス通学はいいがそれによって子供が歩かなくなり体力が低下しないかというような意見も出されていきました。登下校の課題は、子供の安全にもかかわる重要な課題であり、登校の時間、下校の時間、特に歩いて登校する場合の安全性の面は、徹底的に研究していかななくてはいけないと思っています。

【市長】

教育長がいわれるとおりですが、子供たちのこと、家庭の事情についてよくお

話を聞かせていただき、市としてどんな準備ができるのかをよく検討していきたいと思っています。

【男性】

子供の通学路について、兵庫県は整備が進んでいるのですが、京丹後市のほうは、歩道の整備がまだ不十分な気がします。耐震補強も大事だと思うのですが、日常的な通学路の安全確保も大事だと思うのですが。

【市長】

とても大切なご意見で、子供の安全確保については、先日の郷小学校区でも通学路に踏切周辺などいろいろな問題があるとのことのご意見をいただきました。道路については、いろいろな制約はありますが、しっかりと調査し、必要なことは整備したり、構造の見直しをしながら対応していかなければならないと思っています。

また、徒歩通学は3キロを基本にしていますが、様々な状況に応じて判断させてもらいたいと思っています。

【出席者】

郷地区からはスクールバスがでるようですが、郷地区だけですか？高橋も該当しますか？そうなった場合、高橋と新庄ではほとんど距離も変わらないのですが、そういったことについて具体的な検討はされているのでしょうか？

南小学校区の通学路は、登校時に交通量が頻繁でとても危険な状況です。このようなことも検討していただけるのでしょうか？

【教育次長】

スクールバスについて、考え方をご説明させていただきます。ご指摘がありました郷小学校区の通学支援ですが、郷地区と生野内地区が3キロを越えるため、スクールバスを考えています。

高橋区については、郷小学校区の説明会でもご質問がありましたが、集落が隣接しているため、こういう場合どうするのかは3キロを基準に考えておりますが、特異なケースについては、弾力的に配慮したいと思います。

【市長】

通学路の問題は、学校の再編にかかわらず子供の安全を確保しなければならないので、どのような形でどういうふうに整備できるのか、道路の種類にも応じて関係のみなさんとも相談して、できることは何か、できなければどうしたらよいのか、しっかりと検討していきたいと思います。

【出席者】

通学路の関係ですが、今地域で考えていますのは、通勤時間帯の進入禁止ということも含めて、その時間帯だけ一般の車両が入れないように検討していったらどうかということです。これは、信号を避けて通る車が多いため交通量が増えるので、通学時間帯だけでも、進入禁止の措置が取れたらどうかということです。市のほうもご検討していただければありがたいです。

それからもう一点は、京丹後市はこの統廃合の問題について、2年前から十数回にわたって検討会をされたという説明がありました。その中で、どんな問題が出てどう整理されこの計画案となったのかお聞かせください。また、その検討内容で、非常に強く出された課題について知らせていただければと思います。統廃合について、島津地区が反対をしていたという記事を新聞で読んだことがあります。それはなぜそういうことになったのか、そういうことも含めまして、検討委員会の議事録等を公表していただけたらと思います。

【市長】

通学路につきましては、状況も改めて聞きながら、どういったことができるのか関係の皆さんと検討させていただきたいと思います。

【教育長】

検討分科会で出された課題等はどのようなものかということですが、すべてとなると膨大になりますが、網野町で最初に課題となったのは、本当に統合ということがいいのかどうかということです。網野は、南北に分かれたけれども現在こういう児童数になってしまったので、南北1つで新たに建ててはどうかという意見も出ていました。そのほかにも「現状の小学校は維持する」、「人数の減少にあわせて再配置してはどうか」、「橘地区は平成25年でも130人くらいの児童がいるので他の小学校へ送迎するのは難しい」、「子供にとって安心安全を守るため新しく学校を建てなければいけない」、「もう少し子供を生み育てる文化も育てていかなければならない」、「子供が歩いて通学することは大切」、「鉄筋より木造建築のほうが落ち着いた子が育つというような話がある」等、いろいろな意見が出されました。そこで、検討委員会で最終的にまとまりましたのは、「児童数の減少等による複式学級の問題を考慮し、現在6校ある小学校のうち、当面橘小学校は現状のとおり存続させる。」、「他の5校の小学校については、2、3校に再配置する。」という内容で、この意見を踏まえて一番裏面の表を作成しました。

【出席者】

二次診断の結果によっては、島津小が残るかもわからないということでしょうか。ということは、小学校の再配置が変わるのか。

【教育長】

島津小学校の件ですが、島津小学校の横には優①と書いてありますが、これは優先度が1番ということです。最初に二次診断をしていくということで、建物としては古く危険な状態であるという意味です。この診断で本当にこの校舎がそのまま使えるのか、耐震補強していけるのかということなどを総合的に判断していくこととなります。今後、結果を見て判断することとなります。

【出席者】

ということは、もしこのまま島津小を補強したら使えるということになると、三津小が北小に行くのではなくて、島津小に行くことになるのでしょうか？

【教育長】

結果を見なければわからないのですが、原則として第1案で進めていくことが基本にはありますが、診断の結果を見なければわからないということで、結果によっていろいろな可能性が考えられるということで現時点では捉えていただけたいと思います。

【出席者】

この再配置の計画づくりの中で、例えば旧町をまたがる小学校の統合についての議論はあったのでしょうか？

【教育長】

それはいくつかの分科会でも出されておりました。というのは、人数の減りかたが非常に激しいと、現時点ではこの人数でもまた10年経ったら見直す時期が来るのではないかと。ですから、いろいろ近隣の学校と一緒にいかなければまたすぐに変更しなければならぬ時期が来るという意見も出されておりました。今回の再配置案の方針のひとつに町域をまたがらないを基本においており、論議の中にはありましたけれども、町域をまたがる案は作っておりません。

【出席者】

検討委員会に各小中校の中から3名の委員が出ておられ、その説明の中で小規模校の良さもあると聞きました。私も小規模は小規模の良さがあると思いますが、委員の中に小規模校の教職員がおられたかお聞きしたい。もしおられたなら、教職員としてどんな意見を出されたかお聞きしたいと思います。

それからもうひとつ、以前に配布された再配置計画と今回の基本計画の中で、小学校の通学の関係が4キロだったのが今回は3キロになって数字が変わっているようですが、ほかにもこういう部分で改善されたところがあるようでしたら前後比較することもできませんので教えていただきたい。また、今回の意見を聞いていただいて、まだまだ変えていただく余地があるのか？

【教育長】

まず、委員の中で学校の教職員かどうかということではありますが、保護者の意見を中心にしましたので学校の先生は入っておりません。それから、以前の案と変わっているところは基本的にはありません。大きく違うのは、4キロを3キロに変えたということで、あとの基本線はそのままです。それから、当然今回出された意見については、参考にして検討していきたいと思いますが、いろいろなところでいろいろな意見が出ますので、すべてを取り入れることはできないと思います。提案している案を基準にしながら、課題があればそこを整理していかなければと思いますが、できるだけこの基本線は守っていきたくと思っています。

【出席者】

橘校の再配置ですが、何名で統合するという数的な基準はありますか？

【教育長】

特に数を設定しているわけではありませんが、検討委員会のまとめでは、網野町では現在2校ある中学校を存続させるということです。ただし、橘中は、クラブ活動や男女比等も考慮して、1クラスの生徒数が20人を下回るようになった場合は、網野中学校への統合もやむをえないという答申をいただいております。現在は存続としていますが、生徒の動向や仮に20人以上でもクラブ活動等問題が出てくる場合には話を進めていかなければならないと思っています。

【出席者】

合併と耐震とどちらが先になるのでしょうか？

【教育長】

最初は再配置を優先に考えておりましたが、危険な校舎が多く耐震の結果で再配置計画が変わることもあるかもわからないため、現在は並行をして考えています。しかし、条件が許せば、この1案を中心に考えていきたいと思います。まだどのように変わるかわからないので、結果が出るまで半年ほど待っていただきたい。

【出席者】

現在、学校などは避難所に指定されていますが、それが合併したあと耐震補強などはどうなるのか。

【市長】

避難所で使われるような特に体育館ですが、耐震はしっかりやっというところで、計画にも位置づけながらしていきたいと思っています。

【出席者】

学校跡地の活用は、可能な限り統廃合の後の建物については残していくということですが、今後の維持管理もしていただけるのでしょうか？

ところが旧網野町によりますけれども、そういう施設が余ったり使えるものはございません。網野町の実情を見ますと体育館の1つにしても対応する場所がないということで、是非25年か、26年かわかりませんが、その辺に向けて区民が活用できる場所、建物等を検討していただけないか希望を申し上げます。

【市長】

跡地利用につきましては、地元の皆さんの意向をお聞きしながら、一緒に考えて、できるだけことはしていきたいと考えております。また、跡地と建物をどうするかということですが、たとえば郷小学校では、耐震もしっかりしていて施設も新しく設備の整った建物であり、いろいろな活用の仕方も考えられるので、地域の声を聞きながら対処していきたいと思っています。

【出席者】

空グラウンド等を活用して、ひとつ新しい体育館とか施設を建てていただけませんか？

【教育長】

学校も新築ではなく統合していこうとしているので、建てられるのであれば学校を1つずつという議論も出てくるんじゃないかと思います。そういう意味でも、建物を新築するというのはちょっと厳しいと思います。

【出席者】

先日、新聞に小学校でも英語が始まると書いてあったんですが、何年から始まるのか教えてください。

【教育長】

学習指導要領が変わり、平成23年から小学校5年生から英語が年間35時間入ります。今新しい学習指導要領への移行期間で本年度から半分の18時間の英語活動を入れております。23年からは年35時間、つまり週1時間ということです。

(4) 閉会あいさつ(米田副市長)

【閉会 21時】